



スポーツの原点とは!? 地域クラブに引退はない。

全国で部活動の「地域移行」が始まって2年半が経過した。部活動を学校から地域へ移すという取り組みで始まり、現在は「地域展開」として、その地域全体で部活動に取り組む中学生たちを支える、広げるという意味合いも含んできた。来年度はすべての学校で休日の部活動を地域で行うことを目指し、可能な場合は平日の部活動もそうになっていく。ただ、全国が同じように行うのは難しく、その地域の実情に応じた対応も必要になる。今回は埼玉県白岡市で総合型地域スポーツクラブ『白岡Sport-Verein』を運営する代表理事の田口嘉章さん、ソフトテニス経験者の理事、岡田光平さんにこれまでの歩みと運営から見てきたことについて教えてもらった。

文◎福田達 写真◎夏川千鶴



埼玉

玉県白岡市は都心から40 km圏内、人口5万人強、自然にも恵まれている。部活動改革以前から総合型地域スポーツクラブを始めたのが、白岡Sport-Verein（シュポルト・ヴァーアイン）の田口嘉章代表理事だ。

「白岡市で地域クラブを運営して4年目になります。初年度は運営団体からダンスの依頼を受けて、その指導者を派遣しました。2年目は民間企業と我々が教育委員会にプレゼンテーションをして、こちらが業務委託の契約となりました。なので、当初は白岡市の中学4校中2校で始めたのです。その時は15クラブに指導者を派遣して、昨年の秋から白岡市の残りの2校も含めて、4校の43種目すべてを運営しています。」

ソフトテニスに限らず、どの種目も少子化の影響を受けて競技人口が減っています。当初、スポーツ庁が発信したメッセージには将来的な深刻な少子化問題から、学校、地域、民間で協働して地域移行を実現させて、地域で子供たちを育てる新たな可能性を示唆しています。ただ、白岡市では過去10年の生徒数で18人しか減らなかった。でも、さすがに今後の10年間を見れば2035年には290人減ることが予想されます。そうすると、小さな中学校は廃校にならざるを得ない。あと、私はスポーツ少年団に20年ほど関わっていましたが、19歳までが団員となるのですが、中学校に上がると部

活に入るのではとどが12歳で終わってしまうのが現状でした。そこにはずっとジレンマを感じていて、総合型のクラブで何かできるかなと考えて立ち上げたのが今のクラブです。そうこうするうちに地域移行（現在は地域展開）という話が出てきて、これだなと思い動き出しました」

部活動地域移行は当初、自治体、教育委員会、学校の足並みが揃うまでかなりの時間が必要だった。教員の働き方改革の一環という側面が強調されたが、それは当然としても、現在は地域との関わりまで広がり、白岡市のように町づくりの一環として取り組んでいるケースもある。

「行政の事業主体で、スポーツ庁から補助を受けているので、彼らが計画を立てる必要、責任があります。市の計画がないのに、うちの独自の計画を立ててもリンクしなければ意味がありません。まずは市の考えを支援しようというスタンスです。」

この部活動改革において、当初は自治体も何をやっていいのかわからなかったはず。それほど情報がつかめな時期がありました。私も4年やっていくので、いろいろな地域と交流して、意見交換をしてきたのは良かった点です。部活動改革の前年の秋に情報があつたので、教育委員会にやるんだったらお手伝いするよと報告しました。結果、内部で